

隠された領域を拓く

クリエイティブ[アーツ]コア

CREATIVE[ARTS]CORE

大倉富美雄 著

合同フォレスト 発行 / 合同出版 発売

定価 本体 1400 円 + 税 ISBN978-4-7726-6075-4

「クリエイティブ [アーツ] コア」と聞いても、何のことが判らない人が多いかもしれない。これは私の造語で、他に適当な言葉が思いつかず仮に使っていたのだが、徐々に、これでいいか、いや、これしかないかも、と思い始めている。

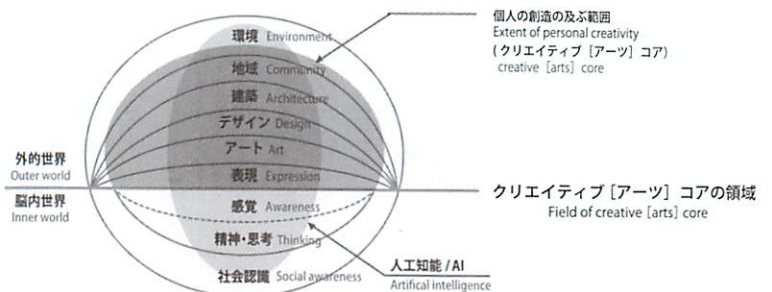
「クリエイティブ」という言葉は最近、さまざまな分野で使われていて、時代を現す流行語にさえなっている。「創造性」と訳すのが妥当だろうが、人工頭脳 (AI) 時代の到来に合わせて、人間の創造性とともコンピューターの創造性が問われているために、使用頻度が上がっていると思われる。ただし本書は、あえて人間の側の知能 (この場合「感性」のうちの視覚や体感が育てるもの) の社会力化とその保護発展を主題にしている。

問題は [アーツ] で鍵括弧付、かつ複数扱いで使用しているが、これは単純に誰もが思い浮かべる「アート (美術)」の意味ではないからだ。視覚を軸にした五感・体感が生み出し、それを「客観性

・論理性・技術力を持って思考し表現する」、いわば論理的思考に並立することに関わる所作を含んでいるからで、分野は大きく拡大する。そこで、定義の定まっていない「デザイン」をはじめ、建築や環境計画、まちづくりのような分野まで含むことになる。分化されたままの社会構造からみても、この分野にはいい日本語がなく [アーツ] としたのだ (映像・アニメ・ファッションなども含むが、具体的な立場はそれぞれの専門家に任すことにする)。

「コア」はこれらが、今後の AI 化社会一特に日本の一にあって、産業的にも職能的にも、人間のためにも、ある中心部分を形成していく分野であることへの覚醒のうながしとして考えた。

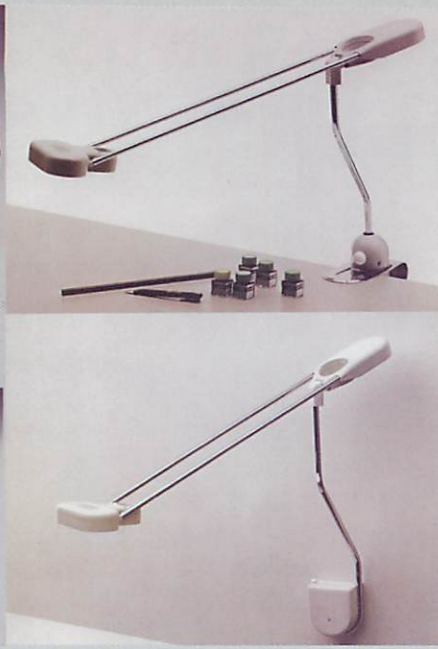
本書は中・高校時代に、受験で「美術」などの勉強は無視した、つまり「視覚・体感的感性」について悩んだことはないという人にも向いていると思う。その意味での、これからのトータルな人間像への欠損補填書のつもりでもある。



(右上 : right above) セルフドローイング「Silent vibes」(Water Paint)
 (右 : right) 高原の学習寮 Learning facility of a high school on a high lands.
 (下 : below) 木製イスとテーブルのセット (小テーブルつき)
 Wooden table and chair set with a hidden small table.



デザイナーには「反省」を
 建築家には「再考」を
 経営者には「最新情報」を
 美術家には「視野」を
 日本を創造する人たちへの
 熱いメッセージ！



ファンヒーター。モノの時代の電製品全盛。手回しネジで風の向きを変える案。(東芝: 1987)
 Fan heater. An electric appliance project during the age of materials. The idea is to change the direction of wind using a hand screw. (Toshiba: 1987)



照明器具(スノーカー・フォスノーヴァ・イタリア) (1981)。ハロゲン電球による。卓上・壁・天井付け、床置きタイプがある。
 Lighting fixture (Snoker: Fosnova, Italy). Halogen lamp. There are tabletop, wall, ceiling and floor standing types. (1981)

(左:left) ファンヒーター: 東芝 Fan heater: Toshiba (右:right) 照明器具: フォスノーヴァ・イタリア Lighting fixture: Fosnova, Italy

主な目次内容の紹介

Main Contents

序章 クリエイティブ前線異状あり

All is Not Quiet on the Creative Front

自分は何をしようとしているのか
 判ってきた個人の感性の位置

第一章 出来ることと出来ないこと

Things That Can Be Done and Cannot Be Done

イタリアが教えたこと

スーパード・クリエイティブ・コア

「美」や「ノウハウ」の軽視への確認

疑問の残る明治からの近代

分離・解体された個人の創意

AI(人工知能) 時代にも消えない職業

エンブレム問題が教えるデザインの凋落

「アンビルド」の女王も救われる

第二章

所々に宿る方の神々

All the Deities Residing in Various Things and Places

言葉の表現からモノの表現への大転換

専門分野だけの拡散は終わった

身の周りの環境への配慮が教える客観性

「クール・ジャパン」の未来

分業のトップを目指すだけの時代は終わった

—デザインの「解体」

出直しの職業—建築家像の「分解」

まだピカソに取り憑かれているのか

—美術の「改宗」

日本を社会美の先進国に

32頁のフルカラー画像入り

Cultivate the Sphere Concealed in Japan

Meiji government and its bureaucracy felt protecting the traditional culture would stifle the industrial development, so they made light of it and neglected to protect and enhance the traditional culture. In general, the concept of "Japanese spirit with Western learning" has also mislead the citizens. This idea brought people's attention to the spirit (soul), but left the tradition unattended as if it was a matter of custom or individual efforts to keep it. So the general public did not feel the need to protect and enhance it.

This resulted in Japanese journalists belittling the tradition also. Japanese also underrate each other's creativities for the reason that "even I can do that much," since many are in fact proficient. Because the internal development and expression of individualism was not prominent in Japan, general public is not keen on the thought that "ideas are not free."

Hands-on designers, architects and artists are also to be blamed.

Fumio Okura

Profile

Employed at an architectural firm in Milan (Studio Carlo Bartoli) after working at a design office in New York and a leading electronics manufacturer in Japan. Became independent and worked in Italy for ten years.

Established the current Design office after returning to Japan. Held positions as the president of Japan Industrial Designers' association, chairman and professor at Shizuoka University of Arts and Culture, president of NPO Japan Design Association, etc..

大倉富美雄 (おおくらふみお) プロフィール

大手電機メーカー勤務後、N.Y.のデザイン事務所を経てミラノの建築事務所勤務。その後独立し在伊10年に及ぶ。帰国後、デザイン事務所設立し今日に至る。この間の要職: (公社)日本インダストリアルデザイナー協会理事長 (1999~2004)、静岡文化芸術大学教授・学科長 (2000~2006)、(公社)発明協会全国発明表彰意匠専門部会長 (2007~)、(公社)日本建築家協会支部デザイン部会長 (2009~2010)、NPO法人日本デザイン協会理事長 (2002~) など、東京芸大卒。

デザイナーの成長を率直に語った

「デザインカ/デザイン心」(美術出版社)も出ています。



20世紀への別れのモニュメント The monument bids farewell to the 20th Century.